

落雷位置標定ネットワークのビジネス展開 「パートナー募集」

概要：「落雷位置標定ネットワーク」とは、落雷に伴い発生する電磁波を3箇所以上で受信し、その到達時間差で落雷の位置を算出するシステムであり、湘南工大では、日本国内に受信局を60箇所以上展開し、落雷位置のリアルタイム情報をネットに無料公開している。

<https://www.5656jp.com/> または<https://map.blitzortung.org/#4.29/38.21/139.08>

さらに、アジア各地にも20箇所以上設置しており、アジア全域での落雷を把握出来るようになりつつある。現在、データは無償提供しているが、システム維持のためにはある程度の維持費用を捻出する必要があり、ビジネスパートナーを探している。提供出来るデータは、リアルタイムおよび過去の落雷位置情報（緯度経度）および落雷時刻（年月日時分秒）であり、これをユーザに応じて加工するなどして販売出来るパートナーを求めている。

本システムの特徴：日本の陸上・海上の落雷位置がリアルタイムで把握できる。また、アジア各地でも展開中。アフリカなどの地域でも装置の展開が安価で可能。受信局の追加設置費用は一カ所あたり5万円、保守費用は全体で年間100万円程度必要。また、同じ落雷を同時に6カ所以上で受信する必要がある。

想定されるユーザー：落雷情報を必要としているのは、損害保険会社、アジアやアフリカの気象庁、建物建設時のリスク評価、屋外イベント会社、送電線への落雷による停電の被害を受けやすい半導体工場、電力会社、海上保安庁、航空会社、落雷被害にあった個人や会社への落雷証明書の発行など

競合：落雷位置標定システムは、民間気象会社フランクリンジャンのJLDN、気象庁のLIDENがある。しかし、いずれも日本の陸地のみ
一方、本システムは、海上やアジア各地をカバーしている
なお、本システムは落雷に伴う電波を受信していることから、気象レーダーや衛星画像が10分程度かかることに対して、瞬時に状態を把握出来る特徴がある。

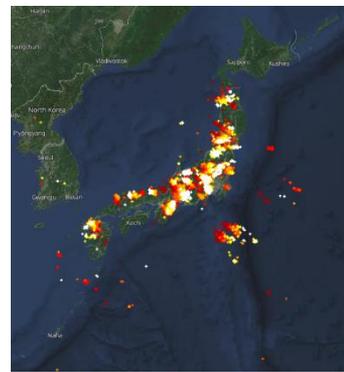
備考：Blitzortung（落雷位置標定システム）は、ボランティアのネットワークであり、標定結果は受信局設置者全員の共有財産で商用提供は不可。
ただし、例外事項があり、受信局設置者のデータは、受信局を設置した人のものであり、自身の受信局からのデータを計算した結果は、有料で提供可能。



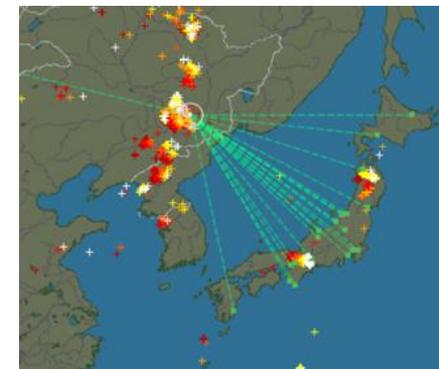
日本の受信局



アジアの受信局



落雷標定事例（2時間）



落雷標定事例（更に拡大可能）